

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3170200376		
法人名	株式会社ハピネライフケア		
事業所名	グループホームはあとピア		
所在地	鳥取県米子市久米町200		
自己評価作成日	平成25年4月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=3170200376-00&amp;PrefCd=31&amp;VersionCd=">http://www.kaizokensaku.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=3170200376-00&amp;PrefCd=31&amp;VersionCd=</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1		
訪問調査日	平成25年4月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

全ての入居者の意思を尊重し、家庭的で居心地良く感じていただける雰囲気作りに努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは米子市の城跡の麓にあり木々に囲まれた静かな所にある。周辺地域に民家が少ないながらも、同敷地内にあるデイサービスや小規模多機能事業所などと共に地域交流を積極的にされている。事業所内の雰囲気はとても和やかで、利用者や職員の笑顔であふれ、笑い声が響いていたり、レクリエーションの大きな歌声が印象的である。昼食後もお部屋に戻られる方は少なく、共用スペースで思い思いに職員との関わりを持ちながらゆったりと過ごされている。また、職員が利用者からの学びを大切にしており、利用者の方に対する感謝の心を持つと共に、日々のケアに生かそうとする姿勢が多く見受けられる。管理者が職員の意見を受け止め、反映させることに努めており、職員間、利用者間の関係も良好である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個別ケアを意識しながら、その人らしい生活がおくれるよう支援に努めています。	法人理念、グループホーム理念がある。ホーム理念「地域の中でその人らしく家庭的に暮らし続けることを支援していく」を事務所内に掲示している。毎朝申し送り時に職員は唱和しホームの理念を1日1回は理念を見て確認し支援を行っている。職員会議でケアの振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて、自治会や地域の行事に参加しています。	自治会に加入している。地区の就將公民館の行事に参加されている。保育園、小学校との交流もある。中学生の職場体験も行なわれている。ボランティアで演芸などは施設内デイサービスと一緒に楽しめる。傾聴ボランティアの方もこれを楽しみとなっている。利用者の知人が季節の花、野菜をベランダで作られ、花を飾ったり、食材としたり、知人との交流が深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の職員がキャラバンメイトの講習を受け、地域の方に理解してもらえるような企画を検討中です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期開催をしており、日々のご利用者の様子を知っていただくと共に助言をいただき行事等の立案に生かしています。又、毎月のグループ会議で伝達し改善や対策を行っています。	同一施設内の小規模多機能事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。米子市職員、義方、湊山包括支援センター職員、地区自治会長、米子駅前交番長、家族代表等参加されている。現状報告、感染症の報告・対応、グループホーム火災について、避難訓練、地域活動・サロン、地域コミュニティーセンターの活用は地区公民館にも知らせている。など話し合わせサービスに繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターの職員さん、駅前交番の駐在さん、民生委員さんに運営推進会議に参加してもらい、意見交換・協力関係を呼びかけています。	市の職員とは、インフルエンザなどの感染症の通知、対応の情報提供頂いたり、生保の方の対応についても幅広く意見を頂いている。地域包括支援センターともサービスの連携がある。さらに駐在所の職員の参加により、地域の治安についても協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういった行為が身体拘束にあたるのかを意識しながら、ご利用者が安心して生活できるケアに努めています。	法人の研修に参加されている。ホームでは職員会議で研修を実施し、職員は理解されている。スピーチロックについても注意してケアを行なっている。日頃より、職員間で話し合うことで職員に身体拘束についての正しい理解を促すことや、ケアの都度振り返りを行っていることで意識の徹底を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様の尊厳を大切にされた接遇を心がけ、言葉使いなど日常の接し方から気をつけるよう職員で話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ご利用されている入居者が折られるので、社内での研修を行い理解すると共に、権利擁護に関する制度の理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人および家族に契約書に基づいて書面にて説明あい、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ISOの是正予防処置、クレーム処理・アンケートを実施し、ご利用者からの苦情を聞いたり、意見箱を設けて対応しています。また運営推進会議にご家族に参加していただき、意見の反映に努めています。	法人がISOを取得されており、是正予防処置、クレーム処理等について研修を行っている。年1回家族、利用者アンケートを実施し意見、要望を聞いている。結果は職員で共有し反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の場や、日々の職員からの意見や提案を聞き、その内容を運営に反映しています。	職員会議月1回、毎日の申し送り時にケアや行事等の意見要望を検討し対応されている。管理者は職員の意見要望をいつでも聞いている。施設長は法人会議に出席され意見、要望は伝える体制もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員の準社員への登用制度を人事評価制度と連携させて実施するなどの取り組みを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ISOの教育計画に基づき、定期的な研修に参加し職員全体に研修内容を伝達し、またその研修内容を職員全体で共有し活用することにより、職員のスキルアップにつなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会が実施している「相互研修」に参加し他の施設の取り組みから学ぶ機会を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネから情報を頂くとともに、ご本人のお話を聞かせてもらう中で、その人らしさややりたいことなど把握するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面接で、本人および家族の思いを十分に聞き、不安を解消できるように取り組んでいます。入居に至るまでの家族の労を労い、介護の課題を明らかにして、家族の思いや希望を共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「自分らしい生活」が送れる様、何を求めておられるのかをきちんと捉え、それに応えられるようなサービスが提供できるよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日々、ご利用者様から学ばせていただく姿勢と視点を大切にしています。ご本人のやりたいこと、お出来になることを大切に、ご自身の役割が持てるように働きかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信をお届けする際、日々のご様子を報告したり、面会時や電話連絡時にご家族と話ができるようにしています。又、年に数回ご家族が参加できる行事を催し、ご本人と同じ時間を共有できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員も知人やご家族と積極的にコミュニケーションに努めることにより、より来ていただきやすい雰囲気・環境作りに努めています。	利用者の知人に訪問に来ていただくことや以前利用しておられた施設でできた友人に面会に付き添って差し上げるなど、利用者が築いてこられた馴染みのつながりを大切にしよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士のつながりを大切にして、できる限り日常生活の中で、協力や助け合いの場面を作れるように支援しています。職員が間に入り、ご利用者同士がより係わり易くできるように心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、時々こちらに来てくださるご家族もあり、相談や支援といった形ではなくても、これまでの関係性を大切にして下さっています。又他の施設に転居後も時々面会に訪れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でお話を聞きながら、ご本人の日々の会話やつぶやきを聞きその方の思いを知り、受け止め、他の職員と共有しています。	主に会話の中で利用者の思いや要望を聞き取るようにしている。さらに利用者間の会話にも耳を傾け、意見のでにくい方の思いも見逃さないようにしている。要望は職員間で共有し、行事や食事などに反映するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	併設施設の特徴を生かし、入居前にデイやショート体験を体験してもらうなど、ご本人に慣れてもらうとともに職員も、ご本人のこれまでの生活歴を把握する機会としています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの思いに合った生活をしてもらえるよう、趣味や楽しみを把握してレクリエーションなどに取り組むと共に、何が出来るのかということに注目し、その方の能力に合った役割を持っていただくことで達成感を感じていただけるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや伝達で、各職員の持っている情報を共有しアセスメントシートを活用し、計画の作成に反映できるようにしています。	申し送り、職員の情報からアセスメントシートを活用しながら事業所独自のシートを作成し、利用者本人や家族の意見を把握することで介護計画に反映させている。さらに3ヶ月に1回モニタリング、評価を行い、利用者の変化に応じた計画も作成している。介護記録等にサービス内容の記録を確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録がサービスの向上につながるよう記入方法を見直し、個別の介護計画の見直し・立案に活用しやすい工夫をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の特徴を生かし、全体での行事やレクリエーションに参加してもらっています。また、ご家族の都合がつかない場合は、医療機関への受診や行きつけの美容院への同行も職員で対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設としては働きかけていますが、ご利用者個人としての生活の中では協働できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力医療機関から、診察に来ていただき、往診での対応が困難な場合は、他の医療機関への受診を行い健康管理を行っています。	協力医療機関の2週間に1回往診で定期的な医療の対応が行なわれている。他の医療機関受診は職員の手で行われている。協力医療機関と管理者、職員と連携して情報の共有が行なわれている。体調や医療で変化のあるとき家族に連絡をされる。はあとピアの看護師と連携をとり利用者の状態把握ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の服薬管理などは、はあとピアの看護職員の助言をもらいながら行っています。また、定期往診時には、協力医療機関の看護職員さんにも、健康相談にのっていただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師やソーシャルワーカーさんと連携を取りながら進めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として看取りは行っていないことを説明し、重度化し共同生活が困難になった場合には、ご家族と話し合いを行いご本人に合った場所へ転居していただいています。	ホームの方針で看取りは行っていない。入所時に文章で説明をしている。状態変化や医療の対象となったときには家族に看取りは行っていない説明をし医療機関又は他施設の転居の理解を得ている。	サービス終了についての書類を渡すだけでなく、明文化した上での署名捺印が望まれる。更に看取りを行うことになる際のことを事前に想定し、緊急時に余裕を持って支援できるよう入所時からの関係機関との協力体制の構築が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日常的に状況把握に努めるとともに、申し送りなどで大事なことはもれなく伝えるようにしています。また、緊急対応の連絡先を事務所に掲示して各職員に徹底し、定期的な勉強会を行い緊急時に対応が出来るよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をご利用者と一緒に行っています。事務所に緊急時の対応マニュアルを張り、常に確認できるようにしています。運営推進会議の場で自治会との連携・協力体制の話し合いを持ったが、立地的に会社や高齢者世帯が多く難しかった。	事業所のある建物内全体で年2回避難訓練を行っている。夜間想定も訓練も行っており、現在の職員全員が経験している。備蓄についても建物内の1階に他の事業所のものと一緒に保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の性格を理解し、プライドや尊厳を傷つけないような言葉かけに努め、職員同士で日々話し合っています。	接遇マニュアルや研修を通して職員の意識付けを行っている。トイレ誘導などは利用者の耳元で伝えるなど、なるべく他の利用者にはわからないように工夫して行き、羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	画一的なスケジュール組ではなく、ご利用者様の希望を聞きながら、行事やレクリエーションなどの企画を実行できるように、一人一人のお話を伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員や施設の都合での生活ではなく、ご本人の希望に沿えるよう話を聞き、対応できるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時も、職員が一方向的に服など用意するのではなく、ご本人の希望を聞きながら、一緒に決めていけるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルに季節の花を飾ったり、食事を楽しむ雰囲気作りを大切にしています。毎月の昼食作り・おやつ作りでは、皆様の希望を聞きながら「食を楽しんでもらう」ということに努めています。	セントラルキッチンを利用。ご飯、味噌汁をホームで用意している。テーブルに職員が持参した季節の花が飾ってあり食事を楽しく工夫をされていた。利用者は職員と共に米とぎ、下膳を行っている。食事作り、おやつ作り、外食を月1回実施している。外食は9名全員、職員と共に馴染みの店に行き利用者にあった食事内容に応じてもらい楽しんでいる。馴染みの店の協力と共に今後も外食支援が継続される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事・水分の摂取状況を記録し、把握に努めています。また、少ない場合は好きなものを用意するなどの工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に実施状況を記録し、口腔ケアの徹底に努めると共に、拒否のある方には口腔ケアの大切さを理解してもらえるよう声かけの工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんどの方が声かけ・誘導が必要なもので、排泄パターンと残存能力を把握し、自立に向けた支援を行っています。	チェック表を把握し殆どの方が声かけ、誘導で排泄支援が行われている。布パンツ2名・パッドなし、失禁なし。1名・布パンツ、パッド、6名・リハパン、パッド使用。入所後定期的な声かけ、トイレ誘導で尿取りパッドの枚数が減った方があり自立にむけた支援が行われた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量を考慮したり、食物繊維を多く含む食材をたべてもらうなど、なるべく下剤に頼らないように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当事業所の現在の勤務体制ではご本人の希望に副っての入浴は困難であり、出来ていません。	入浴は夜間帯を希望する方については対応できていないが、そのことで入浴拒否につながらないよう職員との会話などで気持ちを落ち着けて自発的に入浴していただけるよう、精神面でのケアに努めている。	浴室の構造上、職員の介助が必要以上に多くなる可能性があるため、足台や滑り止め、手摺の数を増やすなどの対応が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファや自分の居室など、思いのままの場所でくつろげるよう、日常的に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、はめどピアの有護職員の援助をうけて、服薬時の注意事項など各職員への申し送りを徹底しています。各ご利用者の服用している薬はカルテへ情報をファイルし、薬効、副作用など理解し状況に応じた服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のご希望をできる限り聞き出し、生きがいのある生活が送れるよう、毎月の外食や季節ごとの外出など工夫して実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に企画して外出はしています。ご本人の希望があった時には外出していただく支援を行っています。	日常から希望によって散歩に出かけたり、自宅の畑の様子を見に帰ったりと希望に応えている。また、家族に協力してもらい、墓参りに連れて行って頂いたりもしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で所持されている方はありますが、日常的に買うおやつ代程度あずかり、小遣い帳で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、家族への電話は職員がかけてご本人に取り次ぐなどしています。また、手紙や荷物が届いたときには、お礼の電話や手紙をかえせるように職員が支援しています。ご自分の携帯電話を持っておられる方もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真やご利用者の作品などを展示しています。又、季節が感じられるような飾り付けの空間作りに心がけています。	共有空間には季節に応じた飾り付けや行事に出かけた際の写真展示があり、ベランダには花が咲いているのが見られ気持ちよく過ごせるようになっている。外部からの雑音などもなく快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのテーブルの位置を工夫したり、ソファを配置して他のご利用者からの視線が気にならない位置を確保するなどの工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛直のあるものを居室に置いていただき、居心地の良い空間になるよう支援しています。	居室前には、利用者が作成した作品などが利用者の希望によって飾られている。居室内も使い慣れた家具が配置されるなど配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞や時計、カレンダーなどは確認しやすい所に置き、トイレにも表示を大きく書いて見やすい工夫をしています。又、米とぎやシーツ交換など職員と一緒に「できること」をやっています。		